

# 有害鳥獣被害と

## 闘う人たち

◎観光経済課 商工農林係 ☎(83)1228



農作物の被害だけでなく、日常生活や観光業にも影響を及ぼす有害鳥獣被害。

今月は、町内の有害鳥獣対策を担う松田町鳥獣被害対策推進協議会の構成員であり、現場の最前線で活動する猟友会の方にお話を伺いました。

### 「猟友会のハンター(狩猟者)としての活動日」

私たち猟友会は、原則として毎週日曜日に活動を行っています。昔は、定められた猟期に限られていましたが、今では「管理捕獲」や「有害鳥獣駆除」といった行政主導の取り組みも含めると年間を通して活動できるようになっています。

### 「ハンターたちの今と昔」

昔の猟友会員は趣味として狩猟をやっていたので、周りから野蛮なものや白い目で見られることもありましたが、しかし、現在は有害鳥獣駆除という目的のもと活動することが増えてきたので、農家の皆

さんや町から感謝されることが多くなりました。有害鳥獣による被害は農作物の被害だけでなくではありません。最近になって住居近くなどでも見かけるようになったヤマビルの生息範囲にも影響があります。有害鳥獣の活動範囲が広がることで、その身体に付いて移動するヤマビルの被害も拡大し、観光業などにも悪影響を及ぼしているのです。

### 「シカやイノシシによる被害」

現在は、地域のため、社会貢献のために狩猟を行っています。農作物の被害が増えている原因として、まず、彼らの活動範囲と人里との境目がなくなってきたことが考えられます。

昔は、シカもイノシシも山奥に住んでいて人間社会と線が引かれていましたが、人間が山に高速道路や別荘地をつくることで、イノシシたちにとって山奥が安楽の地ではなくなってしまうました。つま

り、彼らにとって、山が住みづらくなってしまうため、私たちの近く(人里)に来てしまったのです。

また、他の原因として耕作放棄地が増えていることも考えられます。耕作放棄地には、手入れをされなくなった野菜や果物などがあり、それらは、手入れをしなくても毎年実を付けます。山奥で木の実や木の根っこを探して食べると、管理されなくなっ

